



HPS Japan
Hospital Play Specialist

ニュースレター

News Letter

<http://hps-japan.net/>

2018

vol.10

June.

ニュージーランド訪問記

松平千佳



4月、ニュージーランドのHPS協会が主催する、第9回Biennial International Conferenceにおいて研究発表をおこないました。ニュージーランドのHPSは、2年に1回学会を開催しており、私自身は今回で3回目となる研究発表です。前回は、心身障害児総合医療療育センターの奥田さんと発表をおこない好評でした。今回は、日本の伝統文化であるカルタを用いたプレパレーションの取組みと、奥田さんが開発したカードゲームに関する研究発表をおこないました。

ニュージーランドは先住民族の文化の復興を推進している国で、いたるところに先住民族の言語が用いられています。また先住民族の文化は平和と共存を目指すものであるため、ニュージーランドのHPS協会は、必ずマウイ族の祈りで学会を始め、学会を終わらせます。日本からは私一人の参加でしたが、集まった人々の寛容の精神で疎外感はありませんでした。

学会では、ニュージーランドの子どもを取り巻く多様な問題について、多くを学ぶことのできた2日間でもありました。虐待の問題、医療費の問題、そして家族問題など、システムとシステムの間をつむぐ専門的な視点や方法の欠落が、繰り返し指摘されていましたが、日本とまったく同じだと感じながら聞いていました。また自閉症スペクトラムの子どもに対する医療のあり方や、HPSの仕事の可視化できるような記録文書の作り方、またトランスジェンダーの子どもたちに対する支援など、新しい学びもたくさんありました。



特にトランスジェンダーは障がいではないとの認識は強く記憶に残っており、性同一性障害という呼称はもう使えない、というところまで理解が深まっていることを改めて認識しました。つまり、障がいではなくそのような子どもたちがある一定数必ず生まれており、第3の性として認識することが重要とのメッセージであると思います。またこれらの子どものうち、約10%に自閉症スペクトラムがあるとのことでした。この領域については日本の場合、まだまだ理解が遅れていますね。

私の研究発表は「日本の伝統の遊び、カルタを用いたプレパレーションツールの開発について」でした。大変盛況で、終わった後もたくさんの質問と名刺交換がありました。印象深かったことは、スターライトという最も大きな子ども病院のHPSが、「私たちは寄付も多く、玩具などの材料には恵まれているが、逆にその豊かさが、HPSが本来もっている創造する力を弱めてしまっているのではないかと感じた。原点に戻ったようで、ありがたい」と言ったことです。“無いからこそ作り出す”という姿勢と努力が、私たち日本のHPSの強みだと改めて感じました。先日送られてきた評価表にも「もっと取り組みについて知りたい」「時間が足りなかった」「遊びを用いたプレパレーションの力が伝わった」などのフィードバックをたくさん頂き、大変うれしく思います。

ニュージーランドHPS協会とは、アジアの国々を対象にした学会を開催してはどうかという話し合いを行いました。次回開催に向けた話し合いを進めていきたいと考えています。



松平 千佳

NPOホスピタル・プレイ協会 理事長
静岡県立大学短期大学部 准教授

HPS養成講座13クール&週末2クール修了 18名のHPSが誕生 日本生まれのHPS179名に！



13クール修了生 一言コメント

● 金岡 好（名古屋ブロック）

所属：あいち小児保健医療総合センター
小児病院の整形外科・眼科・感染科の混合病棟で子どもたちと遊んでいます。HPSとしての視点を持った今では、遊びの力をどのように活かすか悩みながら、多職種との連携を密に図るなどして以前の自分より積極的になり日々奮闘しています。出来る事から少しずつでも取り組みを続けていきたいと思っています。

● 工藤 恭子（関東ブロック）

所属：東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科
新しい職場の勤務が始まり、あわただしい毎日を送っています。私は5月末から東京都杉並区の放課後等デイサービスくじらで障害がある学童期のこどもの遊びのボランティアをすることになりました。こども達と楽しく遊ぶのを今から楽しみにしています。こども達のできるをたくさん見つけていきたいと思っています。

● 鎌田 由美（関西ブロック）

所属：国立循環器病研究センター病院 小児病棟
国立循環器病研究センター病院の小児病棟で勤務しています。HPSを取得し、病棟の課題も沢山見えました。入院している子どもたちにとって、より良い環境になるよう、他職種と協働しながら一つずつ着実にこなえるよう、努力していきたいと思っています。

● 黒瀬 恵子（名古屋ブロック）

所属：あいち小児保健医療総合センター
私は育児休暇期間にHPS養成講座を受講しました。職場復帰までに期間があるため、現在は身近な子どもたちに必要なことを模索しながら、在宅での活動を始めています。試行錯誤をしながらではありますが、自分にできるHPSの活動を1つずつ取り組んでいきたいと思っています。

● 三枝 美和（静岡ブロック）

所属：静岡県立こども病院 薬剤室
念願の静岡こども病院に転職して半年、HPSの研修とも重なり、まだまだすべてが研修中の身です。しかし、上司、同僚の理解もあり、HPSとしてこんな事をしてみたい、という思いを伝えています。HPS先輩方にも相談をしながら、少しずつでも実現させていけるよう頑張りたいと思います。

● 前田 梨恵（関東ブロック）

所属：東京慈恵会医科大学付属病院NICU/GCU病棟
私は、入院している赤ちゃんやごきょうだいに遊びを届ける活動をしています。成功も失敗もしていますが、困った時やアイディアが浮かばないときは、13クルールの同期に相談し、支えてもらっています。これからもホスピタルプレイが定着するよう頑張っていきたいと思っています。

● 村田 麻耶（名古屋ブロック）

所属：あいち小児保健医療総合センター
今まで看護師として小児医療に携わり、HPSを取得し、4月から気持ちも新たに保育士として小児専門病棟のNICUとPICUで勤務し、HPSの重要性を感じています。遊びを求めている子どもとともにきょうだいやご家族にとって一番大切なことは何かを他職種と連携し、いま目の前にあることに一歩ずつ取り組んでいます。

● 山田 芙美子（静岡ブロック）

所属：順天堂大学静岡病院 小児科
HPSの資格を取得し、小児科だけではなく新生児センター、手術室各スタッフと協働し、少しずつ活動しています。悩むこともありますが、子ども達のために日々努力し、各科スタッフと協働し前に進んでいきたいです。

週末2クール修了生 一言コメント

●雨宮 幸帆（関東ブロック）

所属：船橋市立医療センター

私の職場は、総合病院の小児科で入院期間が2～7日程度と短期入院の子どもがほとんどです。その短い入院期間の中でこどもの思いをとらえ、必要なことは何かを考えることにまだまだ必死です。焦らず、でも、確実にできることから実施していきたいと思います。

●荒木 遥（関西ブロック）

所属：福井大学医学部附属病院 小児科

HPSとして様々な子どもや家族と関わる中で、遊びの可能性とその遊びが持つ力を日々強く感じています。今後は私がHPSとして医者や看護師ら多職種と連携し、0を1にすることを出来ることからコツコツと積み重ねていきたいと思っています。

●稲森 香織（関西ブロック）

所属：宮崎大学医学部附属病院 小児病棟

職場で子どもと関わる時、HPSの視点の大切さを改めて感じます。「この子にはどのように話したら伝わるか」一人ひとりに合わせ考え関わるのはとても難しいですが、多職種と連携を取ながら一步步進んでいきたいと思っています。

●神谷 浩子（名古屋ブロック）

所属：大阪府保健センター

私は保健所で、3歳児健診やフォローの必要な子のあそび教室を担当しています。保健師や心理士の方と一緒に良い支援を考えています。HPSの視点を生かし、保健所に通う子どもや保護者が安心して楽しく過ごせるように、これからも1つ1つ出来ることから取り組んでいきたいです。

●萱野 いづみ（関西ブロック）

所属：淀川キリスト教病院 こどもホスピス病棟
ターミナル期にある子どもや家族、重い障害を抱える子ども達との関わりが多い病棟で看護師、HPSとして活動を始めています。病気を抱え治療をしている、重い障害を持っている子ども達は命を守る事に必死で遊びを経験していない子ども達が多いです。全ての子ども達が遊びと出会い、命を輝かす事ができるようにHPSとして活動を広げていきたいと考えています。



●倉 愛子（関西ブロック）

所属：石川県立中央病院 小児病棟

業務の隙間を見つけて遊ぶ中で、改めて遊びの持つ力に驚く毎日です。治療のストレスでスタッフとほとんど話さなくなっていた子と、キャーキャー言いながらスライム遊びをした時も、遊びがあって本当に良かったと思いました。今は病棟でも家族同席の抱っこ採血が取り入れられるよう頑張っています。

●中川 めぐみ（関西ブロック）

所属：社会福祉法人 東光学園 児童養護施設

私は2歳から小学1年生の子どもたちが過ごすホームを担当しています。子どもたちは様々な問題を抱えていますが、テリー先生の講義で学んだ4つのCを頭に置いて子どもたちの現状や課題を分析し、日々どんな遊びが必要かと悩みながら関わっています。遊びで子どもたちが自分らしく安心して過ごせるように心身の健やかな成長に繋いでいきたいです。

●西川 恵利（関東ブロック）

所属：日本大学病院 小児科

子どもへの医療環境が優しくなるよう、学んだことを職場へ還元して1つずつ取り組んでいます。現在は採血環境改善に向けてスタッフヘディストラクションの方法を伝えたり、医師へ勉強会をするなどして、病棟で協力・相談しながら出来ることから始めています。

●野瀬 美砂子（関東ブロック）

所属：横浜市立大学附属市民総合医療センター
小児総合医療センター

HPSとしての知識を学び得た分、あれもこれもと取り組みたい気持ちが焦りに変わりそうになりますが、今何をすべきで今何が出来るかを判断し、焦らずに取り組んでいます。他職種の協力を得ながらツール作りをし、完成した喜びを分かち合っています。今後も子どもたちやご家族に寄り添い、支えていく為に、HPSの活動を少しずつ広げていきます。

●藤田 恵理（静岡ブロック）

所属：焼津市立総合病院 小児科病棟

総合病院の小児科病棟にて勤務しています。HPSとして、子ども達に何ができるのか、日々悩みながら、授業での学びを思い出し活動しています。協力してくれる病棟のスタッフに感謝し、活動が広がるよう連携をしていきたいです。まだまだ未熟ですが、自己研鑽に努め成長していきたいです。



NPO法人日本ホスピタル・プレイ協会

～すべての子どもの遊びと支援を考える会～

〒453-0041 名古屋市中村区本陣通5-6-1

地域資源長屋なかむら1階

TEL&FAX 054(202)2652

Mail info@hps-japan.net

事務局 南 伸予、木村 尚子

HPS Japan 静岡県立大学短期大学部

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿2-2-1

TEL&FAX 054(202)2652

Mail hps-japan@u-shizuoka-ken.ac.jp

事務局 高橋 伊津美、増本 芽久美



HPS Japan
Hospital Play Specialist